

全国のロマンチックなスポット

が選ばれる「恋人の聖地」に1月、人魚伝説で知られる上越市大潟区の鵜の浜海水浴場が登録された。旅館経営の傍ら、鵜の浜温泉の観光組合長として海岸の聖地認定に向けて活動してきた。

登録名は「鵜の浜温泉海岸」にした。「鵜の浜の知名度を上げたい。若い客層にもっと訪れてほしい」と意気込む。温泉の文字を入れたのは「冬でも来たくなくてしょ」。2月のバレンタインデー前には早速、温泉街で「恋活」のイベントを企画。1組のカップルを誕生させた。

長岡市出身。長岡工業高等専門学校に在学中、祖父母が始めた今の旅館でアルバイトをし、後を継いでくれと頼まれた。最初はその気がなかったが「言いくるめられて」旅館の融資保証人になった。「腹を決めるしかない」と、決まっていた内定を蹴って入社した。

20年ほど前の入社当時、鵜の浜にもバブル景気の余韻が

佐野 正典さん(41) 上越市大潟区

振り役

アンも獲得した。1997年に旅館を建て替え、3年後に社長を継いだ。

やがて温泉街は、長引く不況のあおりで元気を失い、客層も年々高齢化した。「自分の宿のことだけ考えていたのでは駄目だ」と考えた。9軒ある旅館やホテルの中で、長岡出身の人間は「よそ者」だったが、会合では積極的に活性化のアイデアを語った。

2年前に温泉のPR用にマスコットキャラクターの人魚「うのんちゃん」の着ぐるみを組合で作った。制作費用に上越市の地域活動支援事業を活用するため、申請書類作りやプレゼンテーションをこなした。昨年1月、観光組合の組合長に選ばれた。

14日には北陸新幹線の開業が控える。新駅から距離のある大潟区周辺では盛り上がり、に欠けると感じるが、「狙っていかない」と始まらない。若者を引きつける仕掛けをどんどん考えていきたい」と語る。

恋人の聖地に認定された海

若者呼び込む仕掛けを